

9 ニッポンバラタナゴ (コイ科)

Rhodeus ocellatus kurumeus

兵庫県ランク:A

環境省ランク:CR

種の概要

全長は4 c m程度。流れが緩やかな河川中・下流域、それに続く用水路やため池に生息する。付着藻類や底生動物を食べる雑食性。産卵期は春から初夏で、ドブガイなどの二枚貝の鰓に卵を産み付け、1年で成熟する。日本固有亜種で濃尾平野以西、琵琶湖・淀川水系から山陽地方、四国、九州北部に分布していたが、タイリクバラタナゴとの交雑により、純系は激減した。



県内における生息状況及びその他特記事項

県内ではミトコンドリアDNAを用いた遺伝学的な分析により、タイリクバラタナゴとの交雑が見られない純系の個体群の生息が確認されている（河村，未発表）。生息地は武庫川と加古川水系の隔離された小さなため池数か所のみである。

写真提供: 谷本 卓弥

保護上の留意点

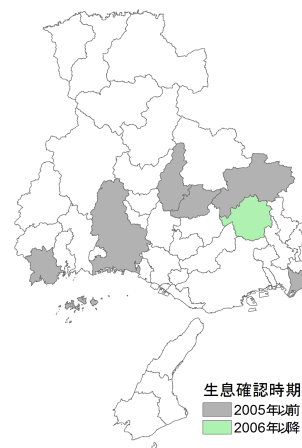
現在県下に生息する個体群が自然分布するものか、他所から導入されたものか見極めるために、遺伝的な精査が必要である。また、絶滅リスクを小さくするため、産卵基質のドブガイが生息し、タイリクバラタナゴが侵入できない隔離された保護池を増やす積極的な保護活動が必要である。

県内分布

尼崎市、三田市、西脇市、多可町、姫路市、赤穂市、篠山市

主要な選定理由

人為性	激減	○
	環境	○
	捕獲	○
	遺伝	○
特殊性	特殊	○
	孤立	
学術性	極限	○
	限界	
	希少	○



【執筆者】田中 哲夫・庄子 恭平・信本 励